

京丹波町で枝豆の植え付け体験をしました！

令和8年6月13日
取材：近畿農政局 消費・安全部

京丹波町主催の「新丹波黒枝豆」の植え付け体験のイベントに参加しました。当日は、農場のみなさんに農作業を教えていただき、自然の中で楽しく作業できたことが印象に残りました。秋には収穫体験が予定されています。皆さんも京丹波町で農業体験に参加してみませんか！

京丹波町は、昼夜の寒暖差や盆地特有の霧が立ち込める自然豊かな地域です。また、広大な森林や四季折々の美しい景色、澄んだ空気も大きな魅力で、訪れる人々の心を豊かにしてくれます。
このような中で「新丹波黒大豆」「丹波大納言小豆」「丹波栗」など、質の高い農産物が大切に育てられています。
さらに、府内最大の酪農地帯として畜産も盛んです。



写真提供：京丹波町



京丹波町役場

京丹波町では、豊かな自然に育まれた「食」を大切な資源とし、農業や観光、産業などを結びつけ、まちの活性化を目指すフードバレー構想を進めています。その取組には「地域おこし協力隊」も関わり、人口減少や担い手不足といった課題に向き合いながら、食の魅力を生かした交流やにぎわいづくりを通じて、将来にわたって持続的に暮らせる地域づくりを進めています。

京丹波町の取組はこちらをご確認ください。<https://kyotamba-shoku.com/index.html> 取組

京都縦貫自動車道
丹波ICより約5分



新丹波黒枝豆の植え付け体験



①土に深く植え穴を掘り、苗が入る場所を作ります。



②土を寄せ、苗が自立するように植えていきます。



③苗の先端部分をはさみで切り、摘心を行います。



④最後にたっぷり水をかけて終了です！

てきしん

摘心とは、植物の先端を切る作業です。摘心することによって、側枝が増え枝豆の収穫量を増やすことができます！また、栄養をいきわたらせることで実も大きくなります！

そくし



ヤングコーンの収穫体験

とうもろこしの幹には、上にとうもろこし、下にヤングコーンの実がつきます。子どもたちからは、「上と下を見分けるのが難しかった～」という声も聞かれましたが、みんな一生懸命に収穫していました。



ヤングコーンはここ！



シャキシヤキとした触感でほのかな甘さが魅力です！



普段はこちらの道具で植え付けられるそうです。マルチシートの穴に、上から苗を入れて、レバーを引くと植付完了！

収穫時期で変わる 新丹波黒枝豆の味わい

～1か月で3つの美味しさ～

【初摘み】10月初旬



- ・比較的綺麗な緑色
- ・一般的な青枝豆、馴染みのある食感
- ・味わいはすっきり
- ・洗練されたさわやかさ

新丹波黒大豆は江戸時代、将軍家へ献上された歴史ある作物。現在は地域を代表する特産品として生産され、成熟前の枝豆は、茹ではもちろん、蒸し焼きでもおいしくいただけます！
ビールだけでなく、日本酒との相性も抜群です！

【中摘み】10月中旬～下旬



- (前半)
- ・さやに黒い斑点が増え始める
 - ・中の豆も赤っぽく変化
 - ・徐々にもっちりとした食感へ
 - ・豆本来の甘みがグッと増す

- (後半)
- ・さやの黒い斑点がさらに増える
 - ・豆は黒に近い紫色、大きさはピーク
 - ・ホクホクとした食感へ
 - ・黒豆特有の深い甘みと濃厚な旨みがさらに増す

【晩摘み】10月下旬～11月初旬



- ・さやが黄金色へと変化
- ・ねっとりとした究極の濃厚食感へ
- ・味わいは豆本来のコクと甘みがギュッと凝縮される

これぞ「新丹波黒枝豆の真骨頂」といえる圧倒的に濃厚な味わい✨

今回農作業を教えてくださいました藤本さんにお聞きしました

～地域おこし協力隊として日々農業技術を学んでいます！～



地域おこし協力隊(2年目) 藤本 詩花さん

Q、地域おこし協力隊とは？

A、人口減少などの課題を抱える地域が人材を受け入れ、地域の活性化に取り組む制度です。京丹波町では、最長3年間、報酬を受けながら地域の農場や商社で農業の生産から販売までを学ぶことができます。黒枝豆などの特産品に関わりながら活動し、定住や就農にもつながります。未経験の方でも安心して始めることができます。

Q、体験において大切にしていることは何ですか？

A、参加者の方に「来てよかった」「楽しかった」と満足してもらうことを一番大切にしています。参加者が主体的に体験できるよう、作業の必要性の背景を説明し、時には参加者自身にも理由を考えてもらうなどアプローチを工夫しています。

Q、体験者に学んで欲しいことは何ですか？

A、京丹波町の素晴らしさを肌で感じながら野菜が食卓まで届くまでの過程やその背景に目を向けて欲しいです。体験を通じた気づきが一次産業への興味やリスペクトに繋がること、それこそが農業体験の大きな意味であり学びになると思っています。

Q、実際に農業に取り組まれていかがですか？

A、楽しいと感じることが多いです！自分が手をかけるほど植物は応えてくれますし、自分が育てた農作物の出荷までを見届けたときはやりがいを感じます。農産物には旬があり、黒枝豆などは黒大豆に変わるまでの短い期間にたくさん収穫しなければならないため大変ですが、その忙しさも含めて楽しいです。

Q、これから農業をやってみたいと思っている方に一言どうぞ！

A、私自身が何もない状態から始められたように、やりたいという気持ちがあれば挑戦することができます。まずは一步踏み出して、とにかくやってみましょう！ぜひ、京丹波町で！

地域おこし協力隊はこちらをご確認ください。(<https://kyotamba-shoku.com/business/business-03.html>)

